

第3章 都市づくりの方向性と都市計画区域内の目標・将来像

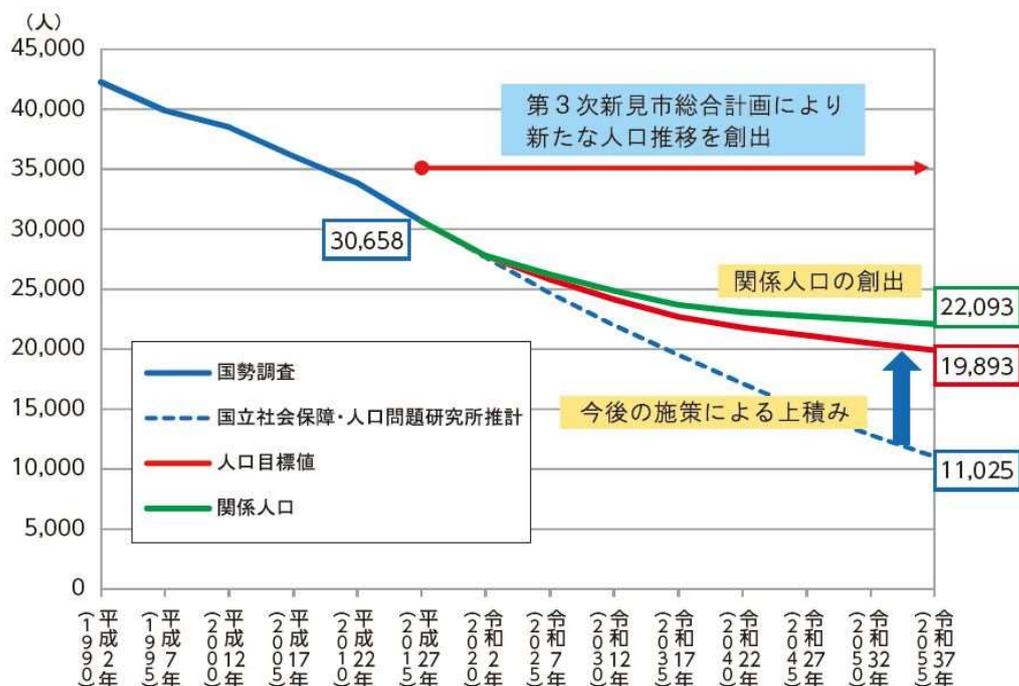
3-1 新見市における都市づくりの方向性

(1) 将来人口の目標

我が国の総人口が減少に転じた流れの中で、現在の状況が続けば、本市の人口は、減少傾向が続き、令和37年(2055年)には1万1千人程度になると推計されています。こうした中、第3次新見市総合計画では、今後、積極的な施策を講じていくことにより、これまでの人口推移のトレンド(傾向)を変え、一定の人口規模(令和37年(2055年)において、19,893人)を維持していくこととしています。

既に園芸農業や林業分野では、移住した多くの若者が就業している事例がみられ、本市の特性を活かし、産業振興や移住・定住対策、子育て環境の整備など様々な分野での施策を積極的に進めることにより、人口減少を抑制し、将来にわたって一定の人口規模を維持していくことを目指します。

さらに、人口の新たな要素として、「関係人口」を取り入れたまちづくりを目指します。関係人口は、移住や定住はしないものの、様々な形でまちづくりに関わる人の数であり、市内出身者や企業活動、民間活動を通じて本市と関わりを持っている人などが想定されます。関係人口を増やすことで、より多様なまちづくりを進めることができると考えています。



資料：国勢調査(国立社会保障・人口問題研究所推計)

(2) まちづくりの方向性

- 人口減少社会に対応した、区域内の拠点間のネットワークを考慮したまちづくり
- 市全体において『市街地エリア』と『地域拠点エリア』の役割分担と連携による「多極ネットワーク型のまちづくり」の推進
- 幹線道路沿線の利用促進、新たなにぎわいの拠点や医療機能や観光機能の拡充に寄与する土地利用の推進
- 施設規模や交通体系、立地効果等を総合的に勘案した都市空間の形成

- 『市街地エリア』と『地域拠点エリア』の役割分担と連携による「多極ネットワーク型のまちづくり」

本市は、石灰産業等で発展を遂げ、鉄道交通の結節点であるJR新見駅周辺や、国道180号に沿った市街地に都市機能が集積し、県北西部の中心地として役割を担ってきました。

しかし、近年、超高齢社会や人口減少社会の到来等を背景として社会経済情勢が大きく変化していく中で、人口減少による地域活力の低下やコミュニティ機能の低下、さらには都市としての魅力や質の低下等、負の循環への懸念が強くなりつつあります。

今後、本市の活力を維持・向上させ、総合計画に掲げる「人と地域が輝き 未来につながる源流共生のまち・にしみ」を実現するため、「市街地エリア」「地域拠点エリア」それぞれが、地域の個性（自然環境、医療、文化、モノづくり等）を最大限に活用し、エリア間の役割分担と連携による「多極ネットワーク型のまちづくり」を進めていきます。

『市街地エリア』である都市計画区域では、中国縦貫自動車道や国道などの幹線道路網が集積する利便性の高さを活用し、自然環境の保全や田園空間との調和を図りながら、産業誘致等による幹線道路沿線の利用促進、新たなにぎわいの拠点や医療・福祉機能や商業機能の拡充に寄与する土地利用を推進します。

なお、各種都市機能の集積や再配置を進めるにあたっては、本市の中核としての求心力と都市全体の活力を高めることを基本として、施設規模や交通体系、立地効果等を総合的に勘案した都市空間の形成に取り組みます。

○『市街地エリア』：「新見都市計画区域」/市内外にわたるひと・モノ・情報(仕事)の結節点

一定程度の都市機能が集積している都市計画区域を『市街地エリア』と位置付け、人口減少や高齢化に対応し、市内外にわたるひと・モノ・情報(仕事)の結節点としての空間形成を図るとともに、都市機能の充実・強化を図ります。

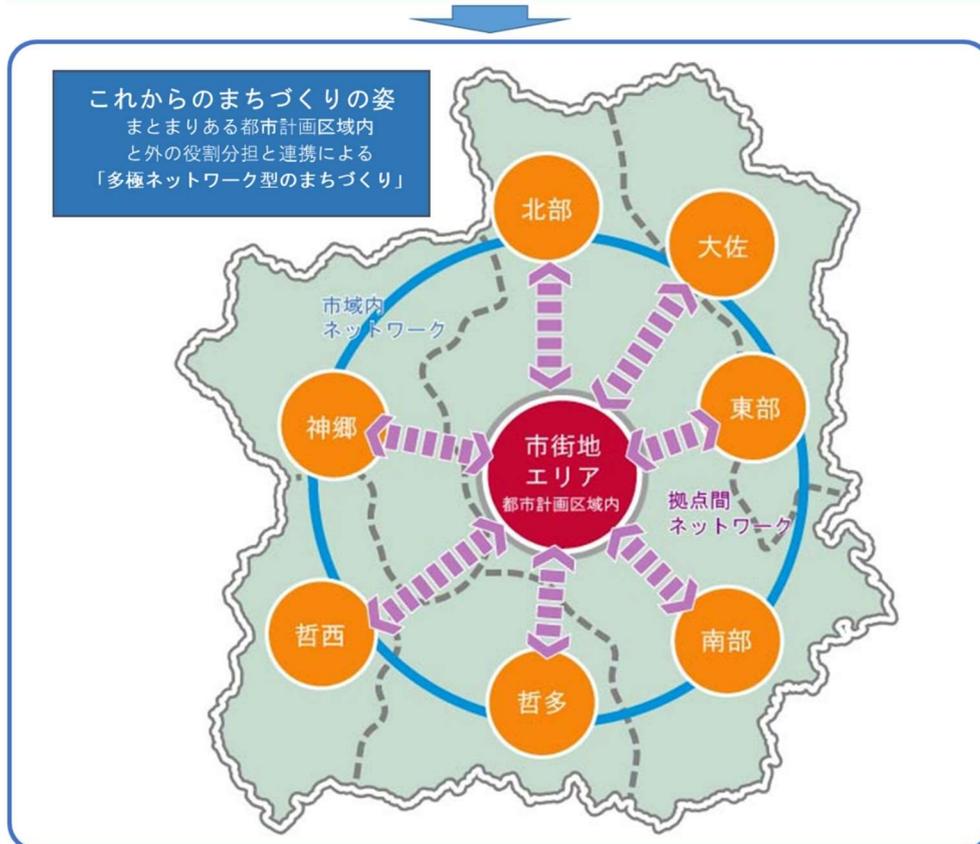
○『地域拠点エリア』：地域の個性を活かした魅力と活力があり、日常生活に必要な機能が集約した複数の集落が集まる地域(都市計画区域外)

「都市計画区域外」において、各地域エリアの個性を活かした魅力と活力があり、日常生活に必要な機能が集約した複数の集落が集まる地域を『地域拠点エリア』と位置付け、人々の相互扶助で地域生活を支える新しい考え方の下、地域特性に留意し、既存施設の活用や交通体系、生活サービス等を工夫し、エリア形成に取り組みます。

○これからのまちづくりの基本的な考え方(概念図)

■課題

超高齢社会、人口減社会、地域活力低下、都市の魅力や質の低下の懸念により、これまでの、個別の都市計画、環境の充実を中心とした都市形成では持続可能な社会の実現が困難です。



総合計画に掲げる「人と地域が輝き 未来につながる 源流共生のまち・にいみ」

(3) 地域拠点エリアの考え方

- 「地域拠点エリア」とは、基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場等を「合わせ技」でつなぎ、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくり、人々の生活が守られ、地域に住み続けられることをめざす取組
- 高齢者なども安心して暮らし続けられる生活圏を形成
- 地域の実情に応じた様々な規模の拠点が複合的・重層的なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かして互いに機能を補いあい、地域での暮らしを総合的に支える仕組みづくり

人口減少や高齢化が進む中山間地域等では、小規模な集落が広い範囲に点在しています。こうした状況では、買い物や医療、福祉など、日常生活に必要な様々なサービスをそれぞれの集落の中で個別に提供することが難しくなるため、商店や診療所などが撤退したり、バスの便が減少したりと、暮らしの維持に必要な機能が徐々に集落から失われていきます。

「地域拠点エリア」とは、小学校区等、複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場等を「合わせ技」でつなぎ、人やもの、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくり、人口が減少しても人々の生活が守られ、地域に住み続けられることをめざす取組です。

この「地域拠点エリア」と周辺集落とをコミュニティバスや将来的に活用が考えられる自動運転などの移動手段で結ぶことによって、高齢者なども安心して暮らし続けられる生活圏が形成されます。

さらに、集落地域のみならず、都市圏も含め、それぞれの地域の実情に応じてつくられた様々な規模の拠点が複合的・重層的なネットワークを形成することで、それぞれの特性を活かして互いに機能を補いあい、地域での暮らしを総合的に支える仕組みをつくることができます。



図 地域拠点エリアにおける取組のイメージ

出典：平成27年3月 小さな拠点ガイドブック（国土交通省）

3-2 都市計画の方向性

(1) 本市における都市計画の方向性

都市計画の目的は、市民が健康で文化的な生活と、地域資源等を活かした多様な都市活動を支え、充分達成できるように、「都市の基礎的な施設」を整備・充実し、土地利用の適正なルールを定め、共有することによって、望ましい都市空間や身近な生活環境を整えていくことにあります。

人口減少が進行し、超高齢社会が到来する中、産業の停滞や活力が低下している地域がみられるとともに、市街地エリアの衰退や空洞化も見られます。

これらの課題を解決するためには、既存の都市機能集積を生かし、公共交通を軸にしたまとまりのある都市環境の形成に向け、市民との協働による都市計画を実施することが必要になっていきます。

(2) 都市づくりの将来像

本市の有する自然環境や豊かな文化、地域資源、様々な地域特性を踏まえ、多様化する市民のニーズの変化にも対応しながら、「新見市における都市計画の役割」を着実に果たしていく都市計画行政を進めるためには、「新見都市計画区域」において、どのような都市づくりの理念を掲げ、どのような都市を目指すのかという「将来像」を明確にする必要があります。

都市計画区域内の「将来像」を検討するにあたっては、本計画の上位計画である「第3次新見市総合計画」、及び「新見都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン：岡山県）」を踏まえ、次のように設定します。

○ 第3次新見市総合計画の基本理念とまちの将来像

●基本理念

- ①自主自立と協働 ②人と環境の調和 ③地域資源の活用 ④未来への展望と責任



●まちの都市像

「人と地域が輝き 未来につながる 源流共生のまち・にいみ」

- ①産業が育ち、地域経済が躍動する 「産業成長」のまち
②若者が夢と誇りを持ち、未来を描く 「希望創造」のまち
③誰もが安心と生きがいを共有できる 「健康共生」のまち
④森林と源流、石炭岩台地が息づく 「自然共存」のまち

○ 新見都市計画区域の都市計画の目標(都市計画区域マスタープラン：岡山県)

【都市づくりの基本理念】

県北西部の中心にふさわしい活力ある都市づくり

【都市づくりの方針】

- 人口減少・少子高齢社会に対応する持続可能な都市づくり
- にぎわいのある市街地の形成と地域の利便性を維持する都市づくり
- 安全・安心で暮らしやすい都市づくり
- 環境にやさしい都市づくり
- 産業振興による活力のある都市づくり
- 個性と魅力あふれる都市づくり
- 連携による相互補完を目指した都市づくり

第3次新見市総合計画をはじめとした上位計画で示した都市づくりを実現していくためには、社会経済環境の変化に対応しながら、これまでの都市づくりの歴史や資源を引き継ぎ、市内のそれぞれの地域を活かしていくことが非常に重要なポイントと言えます。

こうした上位計画に定める基本目標を踏まえ、都市づくりの将来像を次のとおりとします。

○ 都市づくりの将来像

未来につなぐ「産業・健康・自然」共生のまち・にいみ

本市の総人口の約4割が暮らす「新見都市計画区域」は、市内を流れる高梁川に沿って、豊かな自然や都市施設の多くが位置する都市です。

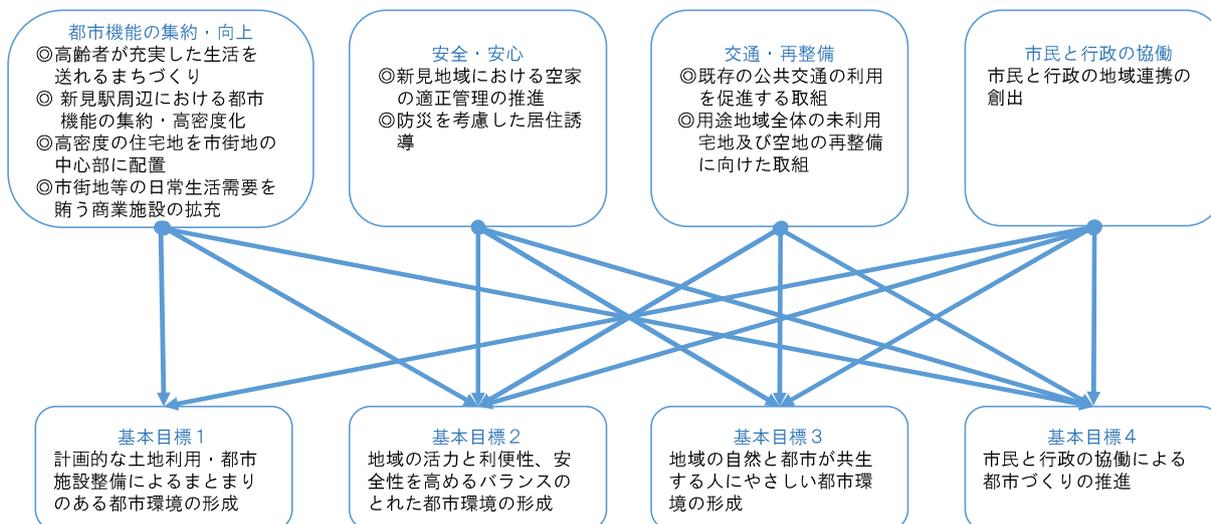
新見市民のみならず、隣接する広島県や鳥取県から岡山県への玄関口として、また、産業が育ち、地域の経済が躍動する都市として、そこに住む若者をはじめとした住民が夢と誇りを持ち、安心して暮らせる都市を目指します。また、人と環境に配慮した質の高い都市基盤を目指し、清流高梁川と共に将来にわたって進化し続ける都市づくりを創造します。



3-3 都市づくりの目標

(1) 新見市の現状課題に対する視点と都市づくりの目標の関係

都市計画区域における今後の都市づくりの視点をもとに都市づくりの将来像を実現するための基本目標との関係性を設定します。



(2) 都市づくりの目標

『未来につなぐ「産業・健康・自然」共生のまち・にいみ』を都市づくりの将来像に掲げ、都市づくりを実現するために、以下の4つの基本目標を設定します。

『基本目標1』計画的な土地利用・都市施設整備によるまとまりのある都市環境の形成

地域の風習文化等の事情や、既存の都市施設・公共施設の配置などの特徴に応じた計画的で効果的な土地利用を進めることにより、無秩序な土地利用の拡大を抑制するとともに、適正な居住や都市機能の配置に向けた取組を積極的に進めることで、安心で利便性の高いまとまりのある都市を構築します。また、計画的な土地利用等により本市ならではの豊かな自然環境の保全と環境負荷の低減を図ります。

- 基本方針1 人口減少と高齢化に対応したまとまりのある都市づくり
- 基本方針2 無秩序な土地利用の抑制と土地利用の整序化
- 基本方針3 市街地における都市機能の集約・高密度化

『基本目標2』地域の活力と利便性、安全性を高めるバランスのとれた都市環境の形成

少子高齢化への対応や新たな人口の受け皿としての住環境整備や交通環境の整備、局地的な集中豪雨等に備えた防災対策をバランスよく、維持・充実させ、都市の生活利便性の向上を目指します。

- 基本方針1 市の個性を活かした市街地における新たな活力の創造
- 基本方針2 日常生活の利便性と景観・防災面に配慮した道路網の整備
- 基本方針3 高齢者・障がい者や若者等に配慮した魅力ある住宅供給と良好な住環境整備による定住化の促進
- 基本方針4 バリアフリーや防災性の視点を考慮した都市施設の維持・更新
- 基本方針5 総合的な防災対策の推進

『基本目標3』地域の自然と都市が共生する人にやさしい都市環境の形成

市域を流れる高梁川や郊外に広がる優良な農地と豊かな自然環境の保全・調和を図るとともに、緑地や水辺空間を生かした都市環境形成を目指します。

- 基本方針1 豊かな自然資源の保全と利活用
- 基本方針2 農地の無秩序な転用や耕作放棄地の増加を防ぐために有効な土地利用の推進
- 基本方針3 高梁川を中心に河川を利用した環境整備の拡充

『基本目標4』市民と行政の協働による都市づくりの推進

市民と行政等の協働による、地域主体の都市づくりを促進することにより、地域特性を活かし、多様なニーズや価値観を踏まえた個性ある都市の創出を目指します。

- 基本方針1 市民と行政の協働の仕組づくりと支援体制の強化

3-4 将来都市構造

将来あるべき都市構造として、新見都市計画区域の都市づくりの基本理念(区域マスタープラン：岡山県)では「県北西部の中心にふさわしい活力ある都市づくり」とされています。この基本理念を実現するために、都市づくりの理念及び目標に基づき、都市計画区域内の各拠点の役割分担、連携と相互補完により、区域全体の拠点性・回遊性を向上させるため、都市機能が集積する「拠点」と、それらを広域的に結びつける「軸」の要素から以下のとおり設定します。

○ 拠点

○ 中心市街拠点：交流・商業核<JR新見駅周辺>

- ・市の玄関口としての強みを生かし、JR新見駅周辺を「交流・商業核」と位置づけ、合理的な土地利用や都市機能の更新により、高次都市機能(商業施設)の立地誘導により、にぎわいがあふれるまちを目指します。
- ・公共交通の利便性を図り、ターミナル機能の向上を目指します。
- ・新見公立大学の学生の住居を誘導整備し、市民と学生が集い、交流によって、人と地域が元気になるまちを目指します。
- ・人口減少と高齢化が進展する中で、中心市街地内に多く残る低・未利用地を有効活用し、秩序と活力あるまちづくりを目指します。

○ 中心市街拠点：行政・福祉核 防災・防犯核<市役所周辺>

- ・市役所周辺を「行政・福祉核、防災・防犯核」と位置づけ、商業・産業・福祉等の都市機能が集積する地域特性を活かし、日用品の購入や医療等の日常生活上の利便性が高いことなど、行政を含めた多様なサービスを享受できる拠点としての機能の向上を図ります。
- ・また、「防災・防犯核」と位置づけ、新見市役所、新見警察署、新見市消防署が連携を図り、安全・安心なまちづくりを目指します。
- ・市民に多様な公共サービスが提供できる公益施設や商業施設等の積極的な集積を図ります。

○ 都市拠点：商業核<正田地区、高梁川に沿って続く国道180号沿線>

- ・中心市街地拠点の都市機能を補完する拠点(商業核)として位置づけ、若い世代を中心とした魅力ある市街地形成に努めます。
- ・国道180号沿線には商業施設を中心に、市民に利用される身近な都市機能の集積を図ります。

○ 都市拠点：医療核<新見インターチェンジ周辺>

- ・JR新見駅と並ぶ市の玄関口である新見インターチェンジ周辺を、中心市街拠点の都市機能を補完する拠点(医療核)として位置づけ、中心市街拠点にある医療機関と共に地域医療を支える都市拠点とし、医療を中心とした都市機能の充実を目指します。

○ 地域共生拠点：＜新見公立大学および都市拠点＞

- ・新見公立大学を活用し、新見インターチェンジ周辺(医療核)を包括したエリアを地域共生拠点として位置づけ、地域に適した小規模単位で、医療、教育を中心に産業振興や若者の定住促進など地域の幅広い課題の解決を図ります。
- ・新見公立大学の福祉、介護・子育て分野の専門性等を活用し、地域の幅広い課題の解決を図ります。

○ 産業拠点：＜既存の工業地等＞

- ・上市工業団地、県営新見工業団地、西方工業団地を中心とした既存の工業地等を産業拠点として位置づけ、産業機能の充実を図ります。

○ レクリエーション拠点：＜城山公園及び御殿町周辺地域、既存の都市公園＞

- ・城山公園及び御殿町周辺地域は、新見市の歴史や伝統・文化にふれる新たな観光地としての形成を図ります。
- ・新見美術館を中心としたエリアは、市民文化や伝統を発展させる拠点として形成し、中心市街地拠点となるJR新見駅周辺とも連携を図り、相互のネットワーク化を進めます。
- ・新見市民公園、城山公園、新見市憩いとふれあいの公園、新見市防災公園等は、広域のレクリエーション拠点としての機能の充実と活用の促進を図ります。

○ 軸

○ 広域交流連携軸：＜中国自動車道＞

- ・本市と京阪神方面、広島方面とを結ぶ中国自動車道を広域交流連携軸として位置づけ、各方面との連携強化を図ります。

○ 地域連携軸：＜市内の拠点や隣接市町を結ぶ主要な国道・県道＞

- ・地域拠点エリアや隣接市町を結ぶ主要な国道・県道を地域連携軸として位置づけ、本区域内及び隣接市町村との連携強化を図るとともに、広域交流連携軸へのアクセス強化を図ります。

○ 市街地連携軸：＜国道・県道と連絡する主要な県道・市道等＞

- ・国道・県道と連絡する主要な幹線道路について、都市計画区域内での効率の良いアクセス環境を構築し、各拠点が一体的な市街地として機能するための骨格として形成を図ります。
- ・都市計画区域内の回遊性と連続性を支える骨格としての役割を担う市街地連携軸として位置づけ、拠点間の交流を促進します。

○ 鉄道交通軸：＜JR 伯備線、姫新線、芸備線＞

- ・大量輸送や速達性、定時性に優れる鉄道（JR 伯備線、姫新線、芸備線）を鉄道交通軸と位置づけ、各駅に連絡する本市全体の公共交通の利便性向上に寄与するとともに、駅周辺の生活利便施設の立地促進、居住環境の向上を図りながら、公共交通の効率化・活性化・利用率の向上を図ります。

○ 自然環境軸：＜高梁川およびその支流、周辺の自然空間、河川空間＞

- ・市街地を貫く高梁川およびその支流は、都市拠点やレクリエーション拠点等をネットワーク化する自然環境軸として位置づけ、水と自然に触れ合う場としての充実に努めます。

○ 土地利用

○ 市街地エリア

- ・幹線道路沿道や河川沿いの平地部は、市街地エリアとして位置づけ、市民の安心・安全、快適な居住環境の確保に資する、住宅を中心とした複合的な土地利用誘導を目指します。

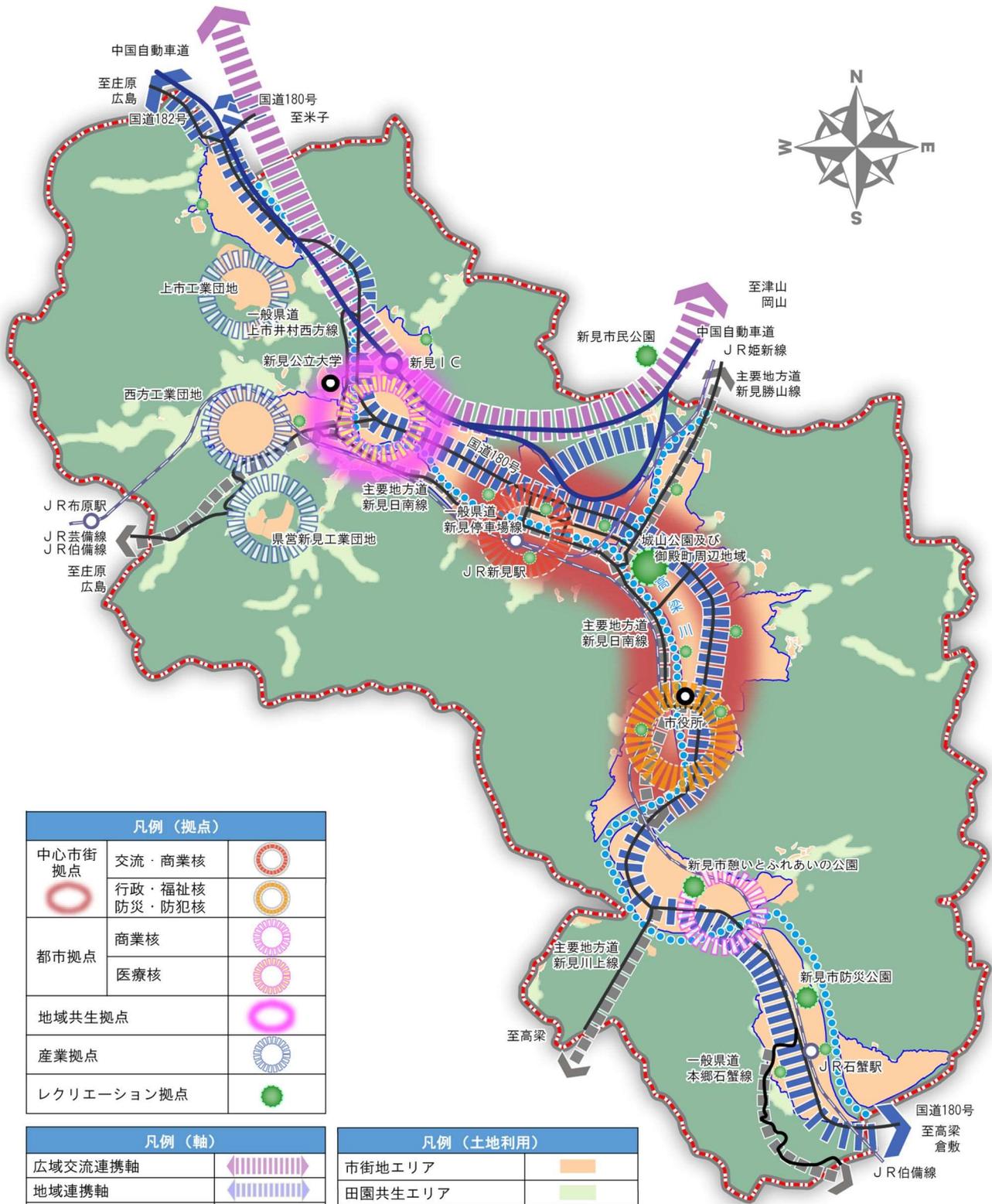
○ 田園共生エリア

- ・本エリア内の良好な農業環境の広がる地域は、居住環境と田園環境の共生を前提に、まとまった農地等の保全と集落機能を維持しつつ、農業振興を図るとともに、地域の活性化の観点から柔軟な土地利用の誘導を図ります。
- ・持続可能な集落を形成するため、農業や自然環境を生かした市内外からの移住等の受け皿として、管理されている空家等の活用による定住人口の確保とともに、集落内の生活環境の改善と生活利便性の向上を図ります。

○ 環境保全エリア

- ・山林を中心とした地域は環境保全エリアと位置づけ、計画的な自然環境の保全を図るとともに、市民が緑とふれあえる場等としても活用しながら、美しい自然景観にも配慮し、将来にわたって積極的に維持・保全します。
- ・本エリア内の中山間地域に点在する既存集落等は、近年、集中豪雨等で被害が大きくなっている自然災害・土砂災害等に配慮し、自然環境を侵さない範囲での安全対策や居住機能の維持に努めます。

将来構造図



凡例（拠点）		
中心市街拠点	交流・商業核	
	行政・福祉核 防災・防犯核	
都市拠点	商業核	
	医療核	
地域共生拠点		
産業拠点		
レクリエーション拠点		

凡例（軸）	
広域交流連携軸	
地域連携軸	
市街地連携軸	
鉄道交通軸	
自然環境軸	

凡例（土地利用）	
市街地エリア	
田園共生エリア	
環境保全エリア	
都市計画区域	
用途地域	
主要道路	